

2014 年度
国際学研究科修士論文

中国地域農業の振興をめぐる政策、実践、交流
—遼寧省の農業事業を事例として—

The policy, practice and communication
related to the revitalization of Chinese
local agriculture

—Agriculture business of Liaoning as an example—

宇都宮大学大学院国際学研究科
国際社会専攻
学籍番号 134109A
氏名 李 震

要旨

中国の農業は世界農業の発祥地の一つであり、農業が昔から重要な国家運営方針であり、産業分類に農業は第一産業に位置づけられている。近年では農業問題を解決するには様々な政策を出され、中央一号公文書は政府から農業、農村へ出された政策の総論である。

本研究では様々な文献を参照し、実践と交流で得た情報により遼寧省発の中国地域農業及び農業政策の現状をまとめ、農業政策の影響とその実施の成果を明らかにした。遼寧省発の中国地域農業及び農業政策の発展方向について検討した。具体的には序と章が4つと結で構成されている。

第一章では中国の現状及び出された政策をまとめ、事例としては東北地域遼寧省の農業振興の状況を把握した。遼寧省にある農家の事例を出し、中国農業の現状を具体化した。

「現代農業論」に現代化を推進するために呉氏らが提出した3つの道を提示し、各国の農業政策を参照し、中国との共通点を見つけ出した。また、中国と日本の共通問題を見つけながら、中国農業を改善するために有効な方法を考えた。

第二章では中国政府が毎年発表した中央一号公文書の内容を中心に、主に2013年と2014年の内容に注目し、公文書の影響力を見出した。中国では今も農業問題が最も重要な課題に位置付けられている。園芸分院代表団の訪日により、日本の先進な技術や機械を中国に導入し、日本に労働力を派遣することになる。民間同士の友好関係があれば、政府にも影響を与えられ、交流を通じて、高齢化問題と労働力不足問題の改善も期待できると分かった。

第三章では、中国遼寧省にある大学の教授、研究機関の研究員、政府の役員などへのインタビューにより、政府から出された政策を実行している状況について検討した。現地調査で最も効果あるのが以下の2つの政策であると示した。第一に国から研究員、職員への給料を保障し、生活の問題を考えずに安心して働かせるという政策を出すことにより、研究員たちが新品種の開発と新しい技術を見つけに力入れ、より効率的に働ける。第二に全部実験用地にすることは荒れ地が多いので、使用部分だけ研究機関に保有する。使わない部分は労働者や技術員や研究員に貸し出し、荒れ地が多い問題を解決した上、収入も増えるし、新品種の研究意欲が更に湧いてくる。生活保障できる政策を普及すれば農業従事者達が生活問題を考えずに、より効率的に働ける。

第四章では、遼寧省の事例を挙げ、交流が中日両国にお互いに利益が得られることを明らかにした。本章では4つの交流内容に焦点を当て、中日両国にとって得られた利益と影響について検討した。また、政府から出された政策と鈴木氏の訪中で遼寧省農業への影響力についても考えた。